

# 千葉の園芸

発行所 千葉市中央区市場町1-1  
公益社団法人千葉県園芸協会  
連絡先 043(223)3005  
発行日 毎月1日  
令和4年10月号

野菜ニュース



## 千葉県ねぎ協議会の取組について

公益社団法人千葉県園芸協会  
産地振興部 主査 野原 翔

(公社)千葉県園芸協会では、県や全農千葉県本部、関係JA等をメンバーとした千葉県ねぎ協議会(以下、協議会)を設置し、産地の共通課題に取り組んでいます。今回は、協議会のこれまでの取組と今後の方向性について紹介します。

### 1 はじめに

本県のねぎは令和2年度の実績で、産出額173億円、栽培面積2,130haと全国2位の産地です。東京都中央卸売市場には、ほぼ年間を通じて出荷されており、特に年明け1~4月の市場占有率は20%を超え、高品質なねぎは市場関係者から高い評価を受けています。また、平成28年度から出荷が始まったプレミアム夏ねぎは、高い品質評価を得て、出荷実績が年々拡大しています。

### 2 これまでの取組について

協議会では、これまで主に以下の取組を実施してきました。

#### ①反収向上・生産量の拡大に向けた取組

- 栽培技術や防除対策等を網羅的にまとめた、栽培マニュアルの作成・配付
- パラソイラー、レーザーレベラー等の機械を利用した排水対策の実証と情報共有
- 「ねぎ黒腐菌核病」の防除に係る実証試験の実施
- プレミアム夏ねぎの生産拡大推進

#### ②省力化に向けた取組

- 省力化機械の実演会の開催
- 省力化や生育期間の短縮を図るため、年内出荷ねぎの軟白部を27cmに変更

#### ③加工業務用ねぎの推進に係る取組

- 先進産地視察、研修会や合同の現地視察開催などによる加工業務用ねぎの推進
- 加工業務用と量販店の両方に対応した出荷規格の作成と普及

### 3 令和4年度の取組と今後の方針について

上記の取組により、省力化機械の導入、プレミアム夏ねぎの生産拡大、新規就農者を中心とした加工業務用ねぎの取組などが進んだものの、全体的にみると



白身27cm規格の箱詰試験(R3)

平成27年からの5年間で面積は110ha、出荷量は5,300t減少しており、茨城県や秋田県などの産地が出荷量を伸ばす中、生産基盤の弱体化が浮き彫りとなっています。また、近年は夏の異常高温や、台風・大雨によるほ場の浸水等も大きな課題となっています。

上記課題の解決、とりわけ生産量の維持・拡大を図るため、今年度は、以下の取組を実施します。

#### (1) 九十九里ねぎ連絡協議会との連携

県内の主要ねぎ産地(海匠、山武、長生)の関係機関からなる九十九里ねぎ連絡協議会と連携し、ねぎの生産に係る目標の設定、各種課題の協議、取組の実施を進めます。

#### (2) 生産対策に係る取組

台風・大雨による根傷み・湿害対策として、各地域が行う排水対策の試験・実証結果を取りまとめ、関係機関で共有します。次年度以降は各種対策を組み合わせた展示ほを設置し、これまで実証が進んだ排水対策技術の普及を図る予定です。

また、夏季高温下の安定生産を図るため、農林総合研究センターと連携し、定植機で利用可能な、新たな中・大苗生産技術の試験を行います。



農林総合研究センター東総野菜研究室ほ場視察(R4)

#### (3) 出荷規格の検討について

協議会では、省力化や出荷の平準化を図るため、九十九里ねぎ連絡協議会と連携して、出荷規格の見直しに向けた協議を進めています。

今年度は、産地と一体となって各種実証試験を実施する予定です。

以上の取組を通じ、本協議会では今後も県内ねぎの生産拡大を推進します。

野菜ニュース



## 炭酸ガス施用の効果を高める 促成トマトの冬季温度管理

千葉県農林総合研究センター 野菜研究室  
研究員 大里 俊一朗

低軒高ハウスの促成トマト栽培において、炭酸ガス施用を行う時は、冬季の日平均気温 18℃を目標に昼夜ともに気温を高める温度管理をすることで大幅に増収します。

### 1 はじめに

秋から翌年の春夏にかけて収穫する長期多段どりの促成トマト栽培では、高軒高ハウスで炭酸ガス施用や高度な環境制御技術を組み合わせて10a 当たり 30t 以上の多収を実現する経営体が近年増加しています。しかし、県全体で見ると低軒高ハウスで炭酸ガスを施用しない栽培が主体です。そこで、低軒高ハウスの促成トマト栽培（品種：「麗容」）において、効果的な炭酸ガス施用を実現するための温度管理について調査しました。

### 2 温度管理と環境

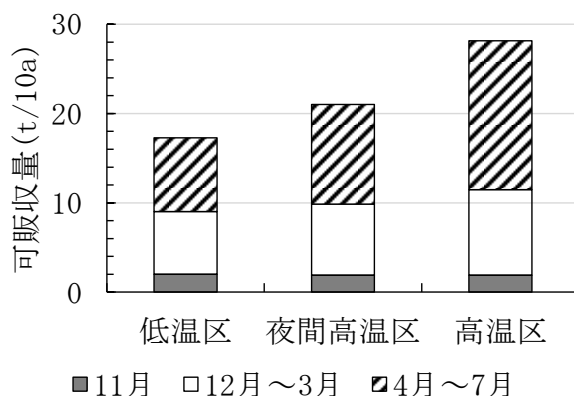
試験は軒高 2.1m のガラス温室で実施し、炭酸ガスは液化炭酸ガスにより、11月28日から4月5日まで日中 3 kg/h/10a 施用し、ハウス内の濃度が 800ppm 以上の時は施用を中断するよう制御しました。温度管理については、現地で一般的に行われている暖房設定 9℃・換気設定 25℃を「低温区」、低温区より夜間のみ高くする「夜間高温区」、昼夜とも高くする「高温区」の3通りを設けました（図）。

その結果、1月の晴天日における日平均気温は低温区で 14.5℃、夜間高温区 15.8℃、高温区で 18.5℃となりました。また、換気設定温度が高い高温区では、日中の換気窓の開度が小さいため晴天日における日中の炭酸ガス平均濃度が高く（低温区 438ppm、高温区 537ppm）、低温区より光合成量が増加したと考えられました。

### 3 収量への影響

11月から7月までの10a当たりの可販収量は、低温区で 17.3t、夜間高温区で 21.0t、高温区で

28.1t となり、日平均気温が高くなるほど増収しました（図）。



低温区：暖房設定 9℃、換気設定 25℃  
夜間高温区：暖房設定 12℃、換気設定 25℃  
高温区：暖房設定 15℃、換気設定 30℃

図 温度管理と可販収量

高温管理が多収となった要因としては、光合成量の増加に加え、開花から収穫までの日数が短縮されたことで、厳寒期の着果負担が軽減して、春先まで樹勢が弱まりにくくなったことが挙げられます。これによって可販率が向上するとともに、総花房数（収穫段数）が増加し、4月以降の収量増加につながりました。

### 4 経営収支の試算

この結果を基に経営収支試算すると、暖房の重油価格を1リットル当たり 79 円とした場合、低温区に対して夜間高温区で10a 当たり約 20 万円、高温区で約 100 万円の増益となりました。ただし、最近では燃油価格が高騰しており燃油価格の高騰下では、高温管理のメリットが少なくなることは注意が必要です。



果樹ニュース



## 全国産地シンポジウム 2022 ブルーベリー in 木更津

君津農業事務所 改良普及課  
普及技術員 田中 智貴

2022 ブルーベリー in 木更津が（一社）日本ブルーベリー協会と 2022 ブルーベリー in 木更津大会実行委員会の共催で7月1日、2日の2日間開催されました。

### 1 木更津市とブルーベリー

千葉県におけるブルーベリー栽培の歴史は古く、1968年に県原種農場で導入されたのが始まりです。その後、1970年代から県内各地で栽培が広まり、1972年には富津市のマザー牧場で千葉県初のブルーベリー観光摘み取り園が始まりました。1980年代には、木更津市で組織的な生産が始まり、市場出荷において量、品質、価格ともに国内トップクラスの産地としての評価を受けており、現在、木更津市では市場出荷で433a、観光農園で889a、合計1322aでブルーベリーが栽培されています。

市内で観光ブルーベリー園を経営し、（一社）日本ブルーベリー協会会長でもある江澤貞雄さんは、地域内の新規ブルーベリー生産者への技術支援を行い、2007年に「木更津市観光ブルーベリー園協議会」を設立しています。現在は協議会に10園が加入し、市内で観光ブルーベリー園を経営しています。

### 2 2022 ブルーベリー in 木更津の開催

全国産地シンポジウム 2022 ブルーベリー in 木更津が（一社）日本ブルーベリー協会と 2022 ブルーベリー in 木更津大会実行委員会の共催で7月1日、2日の2日間行われました。

シンポジウムでは、ブルーベリーの産地形成と産業の発展を目指して、全国からブルーベリー生産者・関係者等、306名が参加しました。

1日目のシンポジウムでは、木更津市の渡辺市長による「オーガニックシティと木更津産ブルーベリー」をテーマに、木更津市が取り組むオーガニックなまちづくりについての活動の紹介や木更津オーガニックブランドの全国的な発信の取組について特別講演が行われました。

次に、千葉商科大学の齊藤准教授による「『ど根性栽培』によるブルーベリー観光農園事業が目指す地域活性化」をテーマに、学生の参画するソーシャル・イノベーション（社会的課題の解決に取り組むビジネスを通して新しい社会的価値を創出し、経済的・社会的成果につなげること）についての基調講演が行われました。

その後行われたパネルディスカッションでは、農福連携、加工品開発・販売等の様々な取組や、異業種から参入した市内外の生産者から発表があり、



講演・パネルディスカッションの様子

ブルーベリーの今後の新たなビジネス展開に向けた可能性が示唆されました。

2日目は木更津市内の観光ブルーベリー園を巡り、それぞれの園が行う、清潔な園造り、園内での加工品販売や食事のとれるスペースの併設などの取組を紹介する産地見学が行われ、大会は盛況のうちに閉会しました。



産地見学の様子（エザワフルーツランド）  
（写真提供：（一社）日本ブルーベリー協会）

千葉県でブルーベリー全国シンポジウムが開催されたのは2006年の大会以来16年ぶりのことでした。今回を契機に地域のブルーベリー産業が全国に周知され、ブルーベリー産地としてますます発展することが期待されます。

頑張る産地



## IPMで持続可能な果樹生産を実現する

東葛飾農業事務所 改良普及課  
普及指導員 小村 享史

東葛飾地域のナシ生産において、化学合成農薬だけでは病虫害防除が困難な事例が認められています。重要病虫害である「ハダニ類」、「白紋羽病」、「ナシマルカイガラムシ」において、化学合成農薬だけに頼らない防除技術の導入を図り、IPMの考え方に基づく病虫害防除を進めることで持続可能な果樹生産の実現に向けて取り組んでいます。

### 1 取組の背景

東葛飾地域はナシを主体とした果実の産地であり、本県果実産出額の45.5%を占めていますが、都市化の進展によりナシ園の周辺に住宅が隣接するなど、営農に気を遣う環境となっています。また、ナシは防除対象となる病虫害が多く、既存の化学合成農薬だけでは防除困難な事例が発生しています。そこで、IPM (Integrated Pest Management : 総合的病虫害・雑草管理) の考え方に基つき、化学合成農薬だけに頼らない防除方法の導入を進め、持続可能なナシ生産の実現に向けて取り組みました。

### 2 各技術の導入と普及

ハダニ類は葉を吸汁し落葉を引き起こす害虫で、農薬に対する感受性の低下が問題となっています。そこで天敵による防除技術を導入するため、令和元年と令和2年の2回、天敵活用に意欲的なナシ生産者等を対象に研修会を開催しました。研修会では講義と現地検討を行い、具体的な天敵の活用方法の解説とともに、実証ほにおける調査結果や防除効果について説明しました。また、天敵を導入しているナシ園においてはほ場の管理方法や技術導入にあたってのポイントや技術導入のメリットなどについて意見交換を行いました。

研修会には2年間で延べ38名が参加して、天敵活用への理解を深めることができました。その結果、天敵活用の足掛かりとして天敵の生育環境を整えるために株元に雑草を生やす「株元草生栽培」が産地に導入され始めています。



写真1 ハダニ天敵活用研修会

白紋羽病は樹体の枯死を引き起こす土壌病害で、対策として株元に温水を滴下することで殺菌する温水点滴処理が有効とされています。この技術の

地域への波及を図るため、東葛飾地域の農業士、指導農業士等で組織する「東葛飾梨研究同志会」の研修会として温水点滴処理機の実演会を開催し、会員以外にも広く参加を呼びかけました。研修会では農林総合研究センターの研究員が白紋羽病の発生生態や、温水点滴処理の殺菌メカニズムについて、機械の実演を交えて解説しました。

研修会に加え、地域内で計3回の実演会を開催し、延べ80名が参加しました。これらの活動を通して温水点滴処理技術を管内のナシ生産者へ広く周知することができたことで、温水点滴処理を9名が実践し、現在、3つの組合で温水点滴処理機の導入が検討されています。



写真2 温水点滴処理の実演

ナシマルカイガラムシは樹体や果実を吸汁し、品質低下、樹の枯死を引き起こす害虫です。ナシマルカイガラムシは幼虫に対する防除効果が高いため、自園での発生状況を把握する方法として、樹上に両面テープを設置して幼虫の付着の有無により防除時期を把握するテープトラップの設置をJAいちかわ果樹部会研究部へ提案しました。

その結果、研究部活動として部員8名がテープトラップの設置を実践し、効果的な防除につなげることができました。

### 3 今後について

新技術を導入した生産者に対しては技術定着のフォローアップを行うとともに、より多くの方が実践できるように推進していきます。また、これらの活動を通して、化学合成農薬だけに頼らない防除技術に地域全体で取り組むことにより、都市化の進む東葛飾地域でのナシの安定生産を実現していきます。





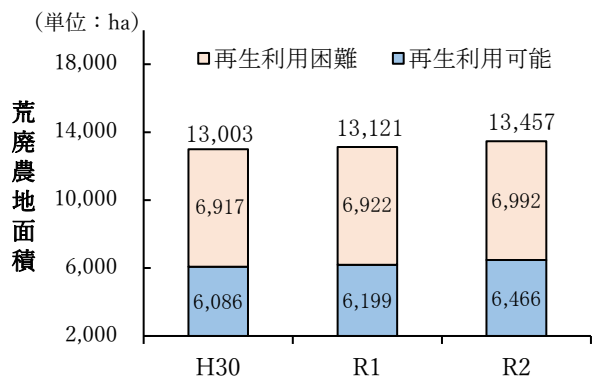
# 荒廃農地の発生防止と解消について

千葉県農林水産部 農地・農村振興課  
農地集積推進室 技師 石川 佳奈実

荒廃農地とは、耕作の放棄により荒廃し、通常の農作業では作物の栽培が不可能となっている農地を指します。荒廃農地の発生は、食料の生産基盤としての農地が減少するのみならず、病害虫・鳥獣被害の誘発や不法投棄の温床となる恐れがあるため、発生防止・解消の取組が必要となります。

## 1 千葉県における荒廃農地の現状

令和2年の荒廃農地調査では、千葉県の荒廃農地面積は13,457haで、全国で5番目に多いという結果でした。荒廃農地面積は前年調査から337ha増加しており、県の農地面積の約1割を荒廃農地が占める状況が続いています。



出典：荒廃農地の発生・解消状況に関する調査

## 2 荒廃農地の発生要因と対策

荒廃農地の増加の背景には、農業者の高齢化や担い手の減少などがあります。管理できなくなった農地は農地中間管理機構を活用し新たな耕作者に託すなど、荒廃化させないよう未然の対策を行うことが重要です。

また、荒廃化しやすい農地の特徴として、狭小で使い勝手が悪い、排水不良など耕作条件が悪いことが挙げられます。

そのため、荒廃農地を再生し営農を再開するためには、雑草・雑木の伐採に加え、土壌改良など簡易な基盤整備による耕作条件の改善が必要な場合があります。

国や県では、荒廃農地の解消・再生等に対して、以下の支援策を実施しているので、荒廃農地の解消に向け、積極的な事業活用を御検討ください。

### ～ 荒廃農地の再生事例 ～



## 3 荒廃農地発生防止・解消のための支援

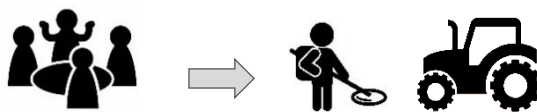
### ①最適土地利用対策

令和3年度から開始された新しい荒廃農地発生防止・解消の支援策です。

本対策では、地域の話合いを通じた荒廃農地の解消・地域農業の活性化や低コストな農地維持（放牧、蜜源作物・緑肥作物・省力化作物等の栽培を行う粗放的農地利用）を支援します。具体的には、荒廃農地の再生利用計画の策定や再生作業、簡易な基盤整備、粗放利用に係る経費等に対し補助金を交付します。

[話合い・計画策定](#)

[荒廃農地再生](#)

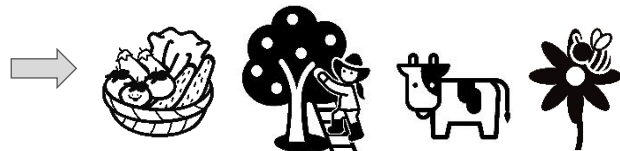


[営農](#)

[観光農園](#)

[放牧](#)

[蜜源作物等](#)



### ②農地耕作条件改善事業

農地中間管理機構による担い手への農地集積及び高収益作物への転換等のために、区画拡大や排水改善等のニーズに合わせ、畦畔除去や暗渠の設置等の営農環境整備（荒廃農地の場合は再生に要する経費含む）のほか、事業実施に当たって必要となる調査や研修会の実施等に係る経費に対し補助金を交付します。

### ③園芸生産拡大支援事業・飼料生産拡大整備事業

荒廃農地を借りて一定面積以上再生し規模拡大を図る農業者に対して、再生面積に応じ、露地野菜や自給飼料の生産等に必要な機械整備を支援します。

各支援の活用を検討される場合は、各市町村農政担当課へ御相談ください。各支援の詳細及び荒廃農地に関する情報を千葉県HPに掲載しておりますので是非御覧ください。

🔍「千葉県 耕作放棄地対策」

## 千葉県立農業大学の学園祭 第43回「社稷祭」を開催

千葉県立農業大学校

令和4年11月12日(土) 10時～13時「社稷祭」を開催します。

本年は、農大の農場で生産した農畜産物の即売をはじめ、芋掘り体験(有料)、昆虫展を実施します。

昨年5月から大規模改修工事が行われておりますが、御来場いただいた方に喜んでもらえるよう、学生は丹精込めて作物、野菜、花きなどの栽培及び加工品の作成に励んでいます。

学生の研究成果については、ホームページなどで公開する予定です。

なお、新型コロナウイルス感染症のまん延状況等により、一部内容が変更となる場合がございます。

【会場】千葉県立農業大学校

〒283-0001 東金市家之子1059

【問合せ】千葉県立農業大学校

TEL 0475-52-5121

【千葉農大ホームページ】

<https://www.pref.chiba.lg.jp/noudai/>



## “千葉なし味自慢コンテスト” 開催結果

千葉県農林水産部生産振興課

9月3日(土)～9月4日(日)に習志野市のイオン津田沼店において「千葉なし味自慢コンテスト」を開催しました。今回は県内の19団体から「豊水」100点の出品がありました。1日目の専門家による厳正な審査により、上位3賞が決定されました。

コンテストに出品された選りすぐりの梨は2日目の即売会で販売され、糖度も高く品質の高い「豊水」の美味しさを消費者の皆様にご存知いただく機会となりました。



1日目 審査会



2日目 開会式

### 上位3賞

賞名	所属組合名	氏名
農林水産大臣賞	船橋市果樹園芸組合	豊田 大輔
千葉県知事賞	船橋市果樹園芸組合	J A いちかわ船橋梨選果場運営委員会 A
農林水産省農産局長賞	鎌ヶ谷市梨業組合	浅海 喜康